

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

もともと小笠原に すむ生き物は？

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

小笠原諸島の父島に人がすみ始めたのは19世紀ですが、人がすみつく前から島にすんでいた生き物はどれでしょう。すべて選びなさい。

ネコ、ネズミ、コウモリ、トカゲ、カエル

東京湾から南へ1000キロ、船に24時間ゆられて、小笠原諸島の父島に行ってきました。海にもぐれば色とりどりの魚に囲まれたのは対照的に、鬱蒼とした森に分け入ってもほとんど動物がいないことには、何とも不思議な感じがしました。

偶然やってきた生き物たち

小笠原諸島は、数千万年前に海底火山の噴火によってできたため、日本列島や大陸と一度も陸続きになったことがありません。島ができた時は生き物がまったくいない状態ですから、現在小笠原にすむ生き物は、すべて何らかの方法で島にたどり着き、環境に適応して生き残ったものの子孫です。

鳥のように翼があれば島まで飛んでくることですが、ネコやネズミのような陸生の哺乳類が1000キロも泳いでたどり着くのは不可能です。人がすみつく前から島にすんでいた哺乳類はただ1種類、自らの翼で飛んできたコウモリだけです。は虫類もただ1種類、トカゲだけがすんでいましたが、これは乾燥に強く、海水にも耐えられる卵が流木などに乗った状態で海流に運ばれて、偶然島にたどり着いたのではな



イラスト・瑞木匠

海を渡った 生き物たち

いかと考えられます。なお、カエルなどの両生類やその卵は海水には耐えられないため、人がすみつく前には、島に両生類はまったくいませんでした。

人の手で持ちこまれた生き物たち

現在、小笠原には、ネコもネズミもカエルもいますが、これらはかつて人が持ちこむか、船の荷物にまぎれて島にやってきたものが広がったのでしょうか。このように、人の手で持ちこま

れた生き物は、外来種とよばれます。

一般に、島にすむ生き物は、外敵が少ない環境で進化するため、外来種に非常に弱いことが多いようです。たとえば小笠原のハトは、地上で木の実をついばんだり、巣を作ったりしますが、これは地上に天敵がいなかったからでしょう。いったんネコが持ちこまれると、格好の餌食になってしまいました。小笠原では多くの外来種が持ちこまれて広がっていることが問題になっており、現在、外来種を駆除する取り組みが進められています。【Z会・小澤碧】

! 今回の教訓

父島では、外来種の動物をつかまえる檻や粘着トラップをたくさん見かけました。また、山のとっぺんから見渡すと、外来種の木が薬剤で枯らされて茶色く変色している一帯がありました。小笠原固有の生き物は、保護しないとあっという間に絶滅してしまう可能性が高いため、外来種を駆除する取り組みは必要なのですが、同時に私はちょっと複雑な心境になってしまうのです。というのも、外来種そのものが悪いわけではなく、責任はその生き物を持ちこんだ人間にあるからです。また、生態系は刻一刻と変わる流動的なものですので、一体どの時点の生態系にもどすのが「正しい」のかを判断するのは、非常に難しい問題だといえます。



小澤碧さん 2010年Z会入社。
理科の教材編集を担当。理学博士。クラシック音楽と水泳と物理をこよなく愛する。1982年京都市生まれ。